

## 令和元年度 第1回FD・SD研修会報告

日時：令和元年7月23日（火）14:40～16:00

講師：美術学科 准教授 新井 浩

テーマ：ALと学修成果の可視化 ―これまでの取組と課題―

金城短大では産業界ニーズGPの取り組みとしてファシリテーター養成講座をはじめたあたりから、アクティブラーニングの研修や実施報告などに取り組んできました。アクティブラーニングという言葉自体は一般的に浸透したものの、それぞれの教員の理解度や実施状況には差があるように感じていました。

研修では、アクティブラーニングや学習成果の可視化についてその導入と意義について、それぞれパワーポイントを用い10分ほど内容の確認共有を行ったあと7つのグループにわかれて自由に討論してもらいました。

アクティブラーニングに関しては、多くの先生が書いたり発表したりという事の意義を改めて感じ、部分的に取り入れている方が多いと感じました。

一方で、アクティブラーニングの最終目標である主体的な学び、というところまで深掘りした授業は少なく、アイスブレイク授業の導入や変化などに活用しているものが多いと感じました。

また、学修成果の可視化に関してはルーブリックの活用などはされつつあるのですが、アクティブラーニングよりも理解や取り組みが浸透していないと感じました。

だれの学修成果をだれに見せるのか、なんのために見せるのか、

- 1) 学生が自分の到達度を示され、学生本人の学修目標を確認させ、意欲へ結びつけていくものなのか、
- 2) その授業自体がカリキュラムや学校の目指すべき一つの授業として、成り立っているか検証するためのものなのか、

といった2つの視点が整理されておらず、共有もされていないと感じました。

